



平成26年度
西区実施プラン
期 末 報 告

平成27年（2015年）3月

札幌市西区

西区では、毎年度「西区実施プラン」を策定し、区の使命と区運営の目標・基本方針を定め、それに沿って計画した各重点取組項目について、検証しながら進めてきました。

その結果、平成 26 年度 of 取組結果の概要は、次のとおりとなりましたのでご報告いたします。

平成 27 年度以降も、区民の皆様と連携しながら、区民が主役のまちづくりを進めてまいります。

平成 27 年（2015 年）3 月 31 日

西区長 広川 英人

I 西区実施プランの全体

西区の使命

区民だれもが健康で安心して生き生きと暮らすことができるように、区民の自主的な活動を支援しながら、区民が主役のまちづくりを進めていくことが西区の使命です。

西区の目標・運営方針

西区は、札幌市まちづくり戦略ビジョン及び第 3 次札幌新まちづくり計画（以下「第 3 次新まち」という。）に基づく環境・文化芸術・防災の各事業を中心に行うとともに、次の方針でまちづくりや区役所の運営を進めます。

- ◆ 地域の豊かな自然環境や文化を活かしたまちづくりを進めます。
- ◆ 安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。
- ◆ 区民の視点に立ち、区民から親しまれ信頼される区役所を目指します。

重点取組項目

- 1 環境にやさしいまちづくり
- 2 文化芸術を活かしたにぎわいあるまちづくり
- 3 地域と共に進めるまちづくり
- 4 誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくり
- 5 区民の視点に立った信頼される区役所

Ⅱ 重点取組項目

1 環境にやさしいまちづくり

(1) 地域の自主的な環境活動の推進・支援

(第3次新まち事業)

① アダプト・プログラムの推進

市民や企業などと区が連携して、道路や公園などの清掃活動を行う「アダプト・プログラム」を実施し、今年度は、新たに4団体が参加しました(参加団体39団体)。

地域での清掃活動のほか、夏は節電対策の一環として「打ち水」、冬は路面凍結による転倒事故の防止のため「砂まき」を行いました。

また、西区のアダプト・プログラムの内容や参加団体を紹介するパンフレットを新たに作成しました。



今年度新規参加した「ミライフ・シナネン北海道(株)」の清掃活動

② 琴似発寒川の環境保全推進事業

各連合町内会や企業等との協働により、琴似発寒川の一斉清掃(5月17日及び9月6日、1,960人)とやまめの稚魚放流(5月24日、1,820人、稚魚放流数29,000匹)を行いました。

また、10月には放流したやまめが成長し遡上する様子を観察する「サクラマス遡上観察会」を行いました(10月4日、27人)。



25年目となったやまめの稚魚放流

〈数値目標〉一斉清掃とやまめの稚魚放流参加人数5,000人 ⇒ 実績3,780人

※ 5月17日は雨天のため、参加人数が少なく、当初目標を下回ることとなりました。

③ 「みどりの貯金箱」活動への支援

公園の落ち葉・刈草などの堆肥化、せん定枝・伐採木の活用など、みどり資源の有効活用となる「みどりの貯金箱」活動への支援や拠点づくりを進めました。

〈数値目標〉みどりの貯金箱設置数3カ所新設 ⇒ 実績2カ所新設

※ 当初設置予定だった西野中央公園の全面改修工事により、設置が次年度に先送りとなったため、設置数が当初目標を下回ることとなりました。

④ 西区みどりの貯金箱×札幌国際芸術祭2014

再生可能な“みどり資源”によるアート創造ワークショップ

新規

「みどりの貯金箱」と「札幌国際芸術祭2014」を連動させた「にしく・もくもくアートフェスタ2014」を西区琴似屯田の森で開催し、地域住民とアーティスト

との協働・交流により、みどり資源を素材とした各種アートを創造するワークショップ開催や作品展示などを行いました（9月13日～21日、740人参加）。

〈数値目標〉 期間中開催イベント延べ参加者数 500 人 ⇒ 実績 740 人



アーティスト作品展示やワークショップの開催状況

(2) 環境教育・学習活動の推進

(第3次新まち事業)

① キッズ・シェフ

野菜の収穫や調理の体験を通して、地産地消や食の大切さを学ぶ「キッズ・シェフ」を開催しました。

前半は、西区小別沢の「まほろば自然農園」で、ニンジンやピーマンなどの野菜を収穫。後半は、琴似のスーパカレー店「らっきょ」のイデ店主を講師に迎え、収穫した野菜でスーパカレーを作る親子料理教室を行いました（7月30日、親子10組22人）。



西区小別沢の農園にて野菜を収穫



収穫した野菜を使ってスーパカレー作り

② 自然体験学習の推進

環境保全の大切さを学んでもらうことを目的に、琴似発寒川や三角山など自然に親しむ自然体験学習会として、小学校や幼稚園などの団体を対象とした「エコキッズ・プログラム」及び、個人を対象とした「西区コドモ自然学校」を実施しました（エコキッズ・プログラム 40 回 2,624 人、西区コドモ自然学校 3 回 56 人）。



親子でエコキッズ・プログラム（五天山公園）

〈数値目標〉 西区コドモ自然学校 3 回 ⇒ 実績 3 回

上記のほか、未就園児とその保護者を対象に、西区の自然を生かした遊び方を紹介する冊子「春夏秋冬～親子で遊びたい～」を活用した自然体験学習会「親子でエコキッズ・プログラム」を実施しました（10月28日、親子15組33人）。

また、環境活動の新たな担い手を育成するため、自然についての解説や指導を行うことができる人材を養成する「西区環境まちづくりリーダー講習会」を開催しました（6月7・8日、10月13日、27人）。

③ 西区こども環境広場

実験や工作、ゲームなどを通して、楽しみながら環境について学べるイベント「西区こども環境広場」を開催しました。今年度は、西区環境まちづくり協議会10周年記念事業の一環として、例年より規模を拡大し、子どもだけではなく、大人も楽しめるよう、料理研究家・星澤幸子氏の講演や西区産の野菜や果物を生産者が販売する直売会も実施しました（10月13日、430人）。



西区産の野菜・果物直売会



北ガスによる燃料電池実験

④ ペレットストーブのPR

区民が環境に優しいペレットストーブを直に見て感じられるよう、区役所1階ロビーに実演展示し、冬期間（12月～3月）のウォームシェアスポットとして活用しました。

また、北海道浦幌町産の高品質なホワイトペレットを燃料に使い、道産ペレットの消費拡大に貢献しました（購入実績300kg）。

⑤ ウォームシェアの推進＜当初計画外事業＞

区役所1階ロビーのペレットストーブ周辺や保健センターの子育て情報ステーション、各まちづくりセンター・区民センター・地区センターのロビーなどをウォームシェアスポットとしていつでも気軽に立ち寄れるようにPRしました。

また、2月15日には「西区ウォームシェア in ちえりあ」を開催し、餅つきややまべ体操などを行い、約300人の市民が参加しました。

その他、区民センター等でもウォームシェアイベントを開催しました。

ウォームシェアスポット利用者数 7,460人

ウォームシェアイベント参加者数 1,362人



西区ウォームシェア in ちえりあ



餅つきの様子

(3) 西区環境まちづくり協議会を中心とした環境活動の支援

(第3次新まち事業)

環境に配慮したまちづくりを進めるために設立された「地球に優しいまちづくりを進める西区民会議」が設立10周年を迎えたことから、「西区環境まちづくり協議会(以下「区民協議会」という。)」と名称も新たに、より充実した内容で活動が継続できるよう、区民の自主的な環境活動を支援しました。

① 省エネ・リサイクルの推進

ごみ減量など、環境問題への意識を高めてもらおうと、環境に関する講演や映画上映をするイベント「エコトーク映画会」を開催しました(2月15日、309人)。

また、町内会や小学校、商店街などで廃食油を集団回収する「多チャンネル型廃食油回収」を行いました(17団体参加)。



整理収納アドバイザー永井友子さんによる講演(エコトーク映画会)

② 環境活動を広げるための情報発信

区民協議会や各地域での環境活動をPRするため、広報さっぽろやラジオ放送、HPなどさまざまな媒体を用いて、地域密着型の情報発信を行いました。

また、区民協議会設立から現在までの取り組みを振り返るとともに、これからの環境活動について話し合う特別番組「わたしの提言エコトーク」を放送しました(1月17日放送)。

③ 自然体験学習の推進 (再掲)

④ 西区こども環境広場 (再掲)

10周年記念事業

◆ 西区環境スタンプラリー

区内の環境関連施設や公園などを巡るスタンプラリーを実施しました（7/26～9/30、141人）。

◆ 西区コドモ自然学校

季節に応じた活動を身近な自然の中で行う自然体験教室を実施しました（8/10・19人、9/23・19人、2/11・18人）。

◆ 自然遊び本活用事業

自然遊び本を活用して、西区の自然を活かした遊び方を紹介する「親子でエコキッズ・プログラム」を実施しました（10/28、親子15組33人）。

◆ 10周年記念誌

平成16年5月に設立された「西区環境まちづくり協議会（当時の名称は「地球に優しい西区民会議）」の10年間の活動を振り返り、設立時からの取り組みや組織の変遷をまとめた記念誌を作成しました。

2 文化芸術を活かしたにぎわいあるまちづくり

(1) 人と文化を結ぶまちづくり事業

（第3次新まち事業）

① 「土曜はコトニ」

「土曜はコトニ」（※）が市民自身の手による持続可能な事業となるよう、広報さっぽろでイベント周知を行うなど「土曜はコトニ」を支援しました。

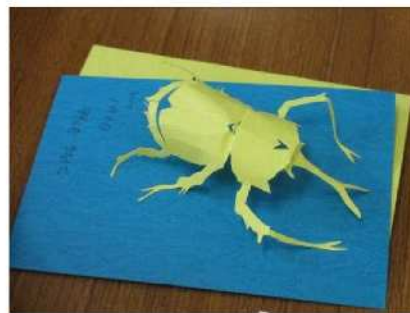
※ 文化活動の関係者や地域の団体が構成する実行委員会が中心となり、琴似地区で各種イベントを開催

② こども・あーと・にしく

子どもたちに美術をもっと身近に感じてもらうため、講師にプロの芸術家を迎え、アート作品を制作するワークショップを開催しました（夏休み期間中に1回、冬休み期間中に同内容で2回、57人参加）。〈数値目標〉開催数2回 ⇒ 実績3回



7月29日 空中に魚を泳がせよう！



1月6日 真冬に昆虫をゲットしよう！

(2) 文化芸術の振興

① 西区文化フェスタ

区民が気軽に文化芸術を鑑賞できる機会を提供するため、「ことにパトス」を会場に「西区文化フェスタ 2015」として、コンサート、ライブ、日舞、演劇など、さまざまなジャンルの文化芸術イベント全 16 公演を開催しました(2月 1 日～28 日、1,400 人来場)。

〈数値目標〉 来場者数 2,300 人 ⇒ 実績 1,400 人

※ 当初 6 日間の出展予定だった団体のキャンセルにより休演日があったため、来場者数が当初目標を下回ることとなりました。



2月 7 日邦楽・邦舞発表会



2月 10 日宝好歌劇団の公演

② 西区シネマ

新規

区民の文化芸術意識の醸成を図るため、大型スクリーンを有するちえりあホールで、アカデミー賞作品賞受賞作品の無料上映会を開催しました(2 回開催、290 人来場)。

〈数値目標〉 開催数 2 回 ⇒ 実績 2 回



7月 16 日「英国王のスピーチ」
8月 27 日「アーティスト」を上映



大型スクリーンでアカデミー賞作品賞受賞
作品を堪能

(3) 音楽を通じたにぎわいの創出

区民が気軽に芸術に触れる機会を提供し、地域のにぎわいを創出する音楽イベントを開催しました。

① コトニ ジャズ

地下鉄琴似駅を会場に、プロのジャズミュージシャンが出演する無料コンサート「コトニジャズ」を開催しました（4回開催、約850人来場）。

- ◆ 6月18日 小野 健悟トリオ
- ◆ 7月16日 蛇池 雅人カルテット
- ◆ 8月27日 工藤 拓人デュオ
- ◆ 9月24日 COPA DOIS

さらに、ちえりあホールを会場とした拡大版コンサート「コトニジャズ in ちえりあ」を初開催し、札幌市内で活躍するジャズバンド3組が出演しました（1月17日、311人来場）。



地下鉄琴似駅でのコトニジャズ



コトニジャズ in ちえりあ

② コトニ クラシック

地下鉄琴似駅を会場に、無料のクラシックコンサート「コトニクラシック」を開催し、札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさんとピアニストの明上山貴代さんが出演しました。

また、西区文化フェスタのオープニングイベントとして、ことにパトスでの拡大版コンサートを開催しました（計4回開催、約900人来場）。



地下鉄琴似駅でのコトニクラシック

〈数値目標〉コトニジャズ、コトニクラシック合わせて来場者数 1,000 人
⇒ 実績 約 1,750 人

(4) 創造都市さっぽろの推進

コトニ ナイト

「創造都市さっぽろ」の推進のため、音楽や映像など最先端デジタル技術と芸術を融合した「メディアアート」のイベントを開催しました。札幌を代表する DJ「DJ TAMA」やダンサーなどが出演し、DJプレイ、ダンス、ジャズバンド、そしてパーカッション奏者とのセッションなどが披露されました（3回開催、約600人来場）。

〈数値目標〉開催数 3 回 ⇒ 実績 3 回



DJ、ダンス、ジャズバンドとのセッション



チカホ北 2 条広場にて開催

3 地域と共に進めるまちづくり

(1) 地域の課題解決をまちセンがサポート

区内に 8 カ所ある「まちづくりセンター」が、住民自ら地域の課題を解決する“地域力”の向上を目指し、地域の魅力や課題を踏まえ、住民とともにさまざまな事業を行いました。

⇒ 各まちづくりセンターの取り組みは 16～23 ページに掲載

(2) 区民との協働推進

① 街頭の貼り紙等の除去

美しく安全な都市環境を目指し、地域の町内会・企業等との協働により、街路灯や電柱への違法な貼り紙等を取り除きました（延べ活動回数 211 回、196 枚）。

② 地域と創る冬みち事業

冬の生活マナーや除排雪への理解度向上、および地域の課題解決に取り組むため、地域住民・除雪事業者・行政の 3 者による懇談会等を開催しました（26 町内会、85 人参加。18 年度からの累計 293 町内会）。

③ 西区花とみどりの回廊づくり

道路景観の向上を目指し、二十四軒手稲通（愛称：ラベンダー通り）のラベンダーによるシンボルロードづくりにおいて愛称等の周知や、沿道の企業・住民との協働による歩道美化などを進めたほか、幹線道路の植樹ます等への花植えによる歩道美化や新川コスモス街道づくりを地域住民との協働で行いました。



西区シンボルロード“ラベンダー通り”
（二十四軒手稲通中央分離帯のラベンダー）

④ アダプト・プログラムの推進（再掲）

⑤ 西区まちづくりパートナー協定の締結〈当初計画外事業〉

西区の一層の発展と飛躍を目指し、共にまちづくりに取り組むパートナーとして、北海道コカ・コーラボトリング株式会社と「西区まちづくりパートナー協定」を締結しました。協定に基づく連携事業として、区政情報を発信できる電光掲示板付き自動販売機（災害時の飲料無償提供対応型）が設置されたほか、まちづくり活動を行う際に着用するビブス 50 着の提供などが行われました。



11月7日に協定締結式を実施



さんかくやまベビブスと自動販売機

4 誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくり

(1) 安全で安心なまちづくり

① 西区子どもの見守りネットワーク会議による活動支援

西区内で事業を行う「西区第1～第3地域包括支援センター」に加入を呼びかけ、区内一円のパトロールを実施してもらうこととなりました。

また、総会（3月11日）の開催やパトロール用品の提供等により、加入団体の活動支援を行ったほか、「西区子どもの見守りネットワーク通信（3回、計52,500部）」を発行し、児童の防犯に関する情報を幅広く提供しました。



西区子どもの見守りネットワーク通信

〈数値目標〉西区子どもの見守りネットワーク通信の発行回数3回 ⇒ 実績3回

② 地域における支え合い推進事業（西町地区で先行実施）

取り組みを開始してから2年目となる今年は、地域で活発に行われている見守り活動や災害時要援護者支援活動をさらに伸ばすと共に、子育て支援や健康づくりなど、地域保健活動の広がりを目指し、下記の事業等を実施しました。

- ◆ 地域団体の会議への出席、子育てサロン訪問などを延べ59回、地域団体が実施する健康づくり行事への協力を22回行いました。



健康サロンにおけるやまベエ体操

◆ 福祉のまち推進センターでの月2回の出張相談に、区保健師のほか、地域包括支援センター、障がい者相談支援事業所が参加し、相談体制を充実させました。

◆ 懇談会などを通じて、地域特性や地域の課題を分析し、福祉のまち推進センター、町内会役員、子育てサロン等と、地域の課題を共有しました。

◆ 世代間交流を目的とし、福祉のまち推進センターの協力のもと、子育て支援交流会を行いました。

◆ 地域と障がい者相談支援事業所の繋がりをつくり、地域の拠点である西町会館における、障がい者団体が主催するイベント「ふくし元気西^{まち}区マーケット（9月20日）」の開催につなげました。



子育て支援交流会

(2) 地域防災力の強化による自然と調和するまちづくり

(第3次新まち事業)

① 地域の防災力強化

「西区地域防災計画書」を9年ぶりに全面改訂するとともに、9月11日の豪雨対応以降、区役所内部の防災体制の整備や、土砂災害危険区域の町内会に対する説明会などを行いました。

また、「西区防災訓練（9月2日）」、「西区防災リーダー研修（11月26日）」、「西区災害防止安全対策連絡会議（2月17日）」を開催したほか、新規事業として、DIG（簡易型災害図上訓練）やHUG（避難所運営ゲーム）を取り入れた「西区防災リーダー研修（上級編）」、「西区災害対策本部会議訓練（2月23日）」を実施しました。



西区防災リーダー研修（上級編）

そのほか、地域における防災講習や発寒地区の防災マップ作成を支援しました。

〈数値目標〉 西区防災リーダー研修(上級編)の参加人数 20人 ⇒ 実績3回、延べ81人

② ヒグマ出没時の安全対策

近年出没が多発する小別沢地区において、JAさっぽろと連携して周辺の農家に電気柵の設置を促すとともに、多くの市民が出入りする貸農園等（5カ所）には、ヒグマの注意喚起看板を設置しました。

ヒグマ出没時には、地域住民や付近の学校などへ速やかに情報提供するとともに、必要に応じて公園を閉鎖するなど、住民の安全確保を最優先に対応しました。



ヒグマの注意喚起看板

また、手稲宮丘小学校において、地域住民向けの「ヒグマ講座（9月29日）」を開催し、ヒグマに関する知識の普及啓発を図りました。

〈数値目標〉 地域住民向けヒグマ講座の実施回数2回 ⇒ 実績1回

※ 9月11日開催講座の会場が、同日の豪雨の避難場所となったため1回中止となりました。

(3) 地域主体の子育てと健康づくり

① 地域主体の子育て活動の充実

子育て情報ステーション「さんかくやまベエのへや」を拠点とした子育て情報の発信を進めたことで、親子の利用者が増え、身近なスペースとして周知されてきました。さらにミニイベント等で、地域で子育てを支援するボランティアと子育て世代との交流の機会を多く持つことができました。

〈数値目標〉 子育て情報ステーション利用者数（子育て相談・情報提供など）

3,000人 ⇒ 実績 5,051人

サロン・託児・研修会・イベントなどのボランティア活動延べ参加者数

1,500人 ⇒ 実績 1,941人

② 地域との協働による健康づくり

健康づくりに取り組む地域団体や自主活動グループとの協働で、健康フェアやウォーキング会、ふまねっと運動、講演会などの健康づくり事業を実施しました。

また、自主活動グループがレシピ提供と指導を担当し、地域の高齢者サロンとの料理交流を実施したり、昨年度作成したレシピ集を初めて親になる夫婦対象の事業で活用するなど様々な世代へ健康づくりの啓発を行いました。

〈数値目標〉 健康づくり支援事業参加者数 2,000人 ⇒ 実績 2,083人

③ イクメン支援プロジェクト

妊婦体験ジャケットの着用や沐浴実習などの体験型実習や、育児中の父親による講演会「先輩パパからのメッセージ」を実施しました。また、参加者同士が交流しながら育児手法を学ぶ、交流会「先輩パパに聞いてみよう」を新たに開始しました。

〈数値目標〉 参加者アンケート満足度 80% ⇒ 実績 90%

④ 介護予防体操の普及

完成して2年目を迎えた「エコロコ！やまベエ誰でも体操」は、広く普及させることを主眼に西区ホームページで広報するとともに、サッポロ・シティ・ジャズをはじめ各種イベントに積極的に出演しました。

(<http://www.city.sapporo.jp/nishi/bu-oshirase/ecoroco-yamabe.html>)

区民自らの手で体操が広まるよう「普及員養成講座」に力を入れ、町内会のラジオ体操やイベント等で主体的な活動が広がりました（普及員養成数 26年度 86人、25年度からの累計 121人）。



普及員養成講座

また、体操を行う人が効果を実感し、さらに幅広い年代に体操が広まることを目指して、体操実施前後の体力や活動量などの変化を明らかにする効果検証を行いました（調査対象者 95 人）。

〈数値目標〉 普及員養成講座 2 回（40 人）
⇒ 実績 3 回（86 人）



ラジオ体操会場でやまべ誰でも体操

5 区民の視点に立った信頼される区役所

(1) 市民サービスの改革

サービス向上の取組

- ◆ 電話・窓口対応などの接遇改善に努めました。また、市民の立場にたち、適切で思いやりのある対応ができるよう職場業務研修（市民対応力向上編 20 人、人を育てる職場づくり編 21 人受講）を行いました。
- ◆ 年度末年度始めの繁忙期に、課長職が庁舎案内を行いました。

(2) 積極的な情報発信

① 区民との情報共有とわかりやすく速やかな情報発信

- ◆ 区民の生活に役立つ情報を、ホームページに速やかに掲載しました。また、広報さっぽろにまちづくり活動に役立つ情報をわかりやすく掲載したほか、7月号では、国際芸術祭の開催にあわせた区内の連携イベントなどを特集しました。



広報さっぽろ7月号西区版の特集

- ◆ コミュニティFM放送を活用し、最新の行政情報（10分間×51回）を積極的に発信しました。

- ◆ 区の魅力を区民と共有し、まちづくり活動に役立ててもらおうよう、自然環境・歴史・文化など西区の特徴をまとめた動画「西区まちあるきノオト」を制作し、ホームページで発信しました。 **新規**

(<http://www.city.sapporo.jp/nishi/syukai/machiarukinooto/>)



「西区まちあるきノオト」の映像紹介

② まちづくりセンターの機能強化・情報発信

- ◆ 地域の情報拠点としての機能を強化するため、まちづくりセンターホームページや情報紙により、地域の出来事やまちづくりの取り組み、防犯情報等を提供しました。また、情報紙は町内会ごとの回覧や公共施設等へ掲示し、より広く情報が伝わるようにしました。



- ◆ まちづくりセンター所長会議を毎月開催し、地域からの連絡事項や区の取り組みなどの情報提供を行い、区と各まちづくりセンター相互の情報交換、情報集積を行いました。

(3) 区役所の改革

① 職員の意識向上

- ◆ 服務規律の徹底や職員としての心構え、西区に関する広い知識を学ぶために研修を実施しました（不祥事防止対策研修 343 人、新採用職員研修 25 人受講）。
- ◆ 若手職員の育成を目的に、担当業務に限らない市政知識を習得する研修（監査のしくみと指摘事項の解説 19 人、文書作成 17 人、不当要求対応・公益通報 14 人受講）を実施しました。

〈数値目標〉 実施回数 3 回 ⇒ 実績 3 回

- ◆ 普通救命講習（76 人受講）、メンタルヘルス研修（66 人受講）を行いました。
- ◆ 庁内ホームページに区民への配布物一覧を掲載するなど、組織間での情報の共有に努めたほか、新採用職員や各係の紹介記事を掲載することで、職員間のコミュニケーションの活性化を図りました（紹介数：新採用職員 25 人、44 係）。
- ◆ 障がい者及び高齢者支援に関わる情報共有を目的に、保健福祉部係長職による会議を実施し、組織間の連携を強めました（4回実施）。

② 職員の市民活動への参加・協力

職員が市民活動などへの参加で得た市民感覚を業務に反映させました。

- ◆ 琴似商店街のアダプトプログラムによる清掃実施日に併せて、職員が区役所周辺の清掃活動を行いました（5 回実施、延べ 127 人参加）。
- ◆ 「西区もりあげ隊」による社会貢献事業や市民活動などへの参加・協力を行いました。

6月21日 “まちもり” 合唱コンサート（琴似二十四軒まちづくりセンター主催）

8月2日 まちもりカフェ（琴似二十四軒まちづくりセンター主催）

8月2日 琴似屯田ふれあい祭（札幌郷土文化推進センター主催）

9月6日 キッズカーニバル（琴似二十四軒地区福祉のまち推進センター主催）

12月13日 クリスマス会（琴似二十四軒地区青少年育成委員会主催）



12月13日クリスマス会
（西区もりあげ隊）

(4) 財政収入の確保

① 国民健康保険料収納率の向上

国民健康保険会計の健全化や市民の得るべき利益のため、加入者の負担の公平・公正を目指し、折衝時のきめ細やかな対応や納付資力の把握に努め、さらに、口座振替加入の促進など収納対策の強化を進めた結果、滞納世帯が減少し、収納率が向上（3月末現在 収納率 92.21%、対前年比 0.42 ㇰ ㇰ 増）しました。

② 行政財産の有効活用

西町会館への自動販売機設置（年額 120,000 円）及び区役所庁舎への自動証明写真機設置（年額 420,000 円）について、民間事業者への貸し付けを継続し、行政財産の有効活用と財源確保を図りました。

また、区役所 1 階ロビーの西区周辺案内版に、民間事業者の広告を掲載し、財源を確保しました（年額 324,000 円）。

八軒まちづくりセンター

地域の力を結集し支え合うまちづくり

地域の伝統文化を守り、伝えるまちづくり

地域の力を結集し支え合う — 防犯パトロール活動及び高齢者見守り活動 —

八軒連合町内会を中心に、関係団体や事業者などによる「八軒まちづくり協議会（八軒サポート隊）」を構成し、安全・安心なまちづくり、地域で支え合うまちづくりを進めています。

青パト講習会 (6月)

西警察署から講師を招き、青色回転灯防犯パトロール活動における留意点などを学びました。



救命導入講習 (AED講習) (12月)

消防隊員・消防団員から、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの操作手順など、救命処置の方法を学びました。



あったか交流会 ~ウォームシェア DE 介護予防~ **新規** (12月~3月、月1回開催)

冬は家に閉じこもりになりがちな高齢者の参加を促し、介護予防と地域交流による見守り活動、そしてエネルギー節約にもつながるウォームシェア事業を実施しました。健康体操で体を動かしたり、温かい料理を楽しむなど、各回の実施内容を工夫しました。



地域の伝統文化を守り、伝える — 八軒音頭の保存・継承 —

地域の貴重な財産である伝統文化「八軒音頭」を次の世代に継承し、郷土愛を育み魅力ある地域づくりを進めるための支援を行いました。

(この事業は八軒中央地区、西町地区との連携・協力により実施しました。)



小学校での八軒音頭指導 (5月)



YOSAKOI ソーラン祭りハーフタイムショーでの演舞 (6月)



琴似神社祭典パレードでの演舞 (9月)

琴似二十四軒まちづくりセンター 「まちもり」(“まち”を盛り上げる)

1. 合唱コンサート

日時：6月21日
場所：イトーヨーカドー琴似店 トライ・アングル広場
出演者：琴似中合唱部 63人、陵北中合唱部 54人
参加者：200人

中学生によるまちの賑わいを創出することを目的として、イトーヨーカドー琴似店のトライ・アングル広場にて琴似中学校と陵北中学校による、合唱ミニコンサートを開催しました。「夢の世界を」や「マイウェイ」など、両校あわせて8曲を合唱しました。



▲琴似中合唱部



▲陵北中合唱部

2. まちもりカフェ& シャッターアート **新規**

日時：8月2日
場所：琴似二十四軒まちづくりセンター前
参加者：140人

地域の人々が交流する場の提供として、1日限定のカフェをまちセン前にオープンしました。当日はカフェの一角に三角山放送の中継ブースを設置し、地域住民によるまちづくり情報などを生放送。近隣のカフェの協力も得、収益金14,050円はまちづくり推進の活動に役立ててもらうため、さぼーとほっと基金に寄付しました。

また、まちもりカフェに先駆けてまちセン前にあるシャッターに琴似小などの子供たちが絵を描き、まちもりカフェ当日に完成。道行く人の目を今も楽しませています。





少年サッカー教室

日時：8月30日（土）
場所：宮の沢白い恋人
サッカー場

区内のサッカー少年団 13 チームに所属する約 170 人の小学生が、将来のＪリーガーを目指し、コンサドーレ札幌の選手から指導を受けました。児童からは、選手へ応援メッセージパネルが手渡されました。

コンサドーレ選手と児童が交流

日時：12月15日（月）
場所：手稲宮丘小学校

コンサドーレ札幌の選手3人が訪問し、5年生約120人と交流を深めました。



YOSAKOI ソーラン祭り

日時：6月7・8日（土・日）
場所：宮の沢白い恋人パーク

八軒音頭保存会
約 140 人による
八軒音頭の披露



西町・コンサ通りインフォメーション

地下鉄宮の沢駅に掲示板を設置し、地域のまちづくり活動やコンサドーレ札幌の情報などを紹介しました。



手稲東小学校、西小学校児童によるヨサコイの披露

お菓子作り体験会

日時：3月7日（土）
場所：西町会館
地域の小学生 64人がマシュマロチョコ人形とクッキーケーキ作りに挑戦しました。



地域の方による
踊り子さんへの
給水ボランティア



西区介護予防体操
「エコロコ！やま
ベエ誰でも体操」の
披露

発寒北まちづくりセンター 「もっと ずっと ハツキタ」

地域の子どもたちから提案のあった「地域内環境美化」の取り組みを、町内会や商店街、小中学校などと連携して実施しました。

また、地域の安心・安全のため、札幌鉄工団地地区を対象に、防災マップを作成しました。

子どもたちのアイデアで始まった 発寒北地域内一斉環境美化「発北 キラキラ 7 days」を継続実施！



地区内の子どもたちが提案した地域の環境美化活動である「発北 キラキラ 7 days」を実施しました。

発寒小・発寒東小・西陵中の全校児童・生徒のほか、町内会、商店街、企業、団体などから延べ約2,000人が参加。地域の清掃や花壇整備を行い、わがまちをみんなでキレイにしました。

- ・期間 7月1日～7日
- ・会場 発寒北地区一円



札幌鉄工団地地区で、まち歩き・ワークショップを行い、防災マップを作成！

札幌鉄工団地地区において、平成24年度に作成した「発寒北地区安心安全マップ」を活用した、より詳細な防災マップを作成しました。

作成にあたっては、10月24日に地域住民でまち歩きを行い、地区内の防災資源や危険箇所を把握。10月28日と1月22日にワークショップを行い、地図に掲載する情報を検討しました。

完成したマップは、地区内全戸に配布予定です。



西野まちづくりセンター 水車のあるまち西野

水車まつり



福井ばやしのと太鼓演奏に合わせた書道パフォーマンス『輝く西野水車まつり』

地域活動の拠点である「町内会館」やその支援を行っている「まちづくりセンター」をより多くの住民に知ってもらうとともに、地域の交流を深めるために、「水車まつり」を開催しました。

西陵高校書道部OBらによる書道パフォーマンスで始まり、竹トンボ作り教室やコンサートなど多くの催しを行いました。

また、町内会により地元野菜の直売会や露店なども出され、終始賑わいを見せていました。

実施日：8月30日(土)

場所：西野第二会館、西野第二公園

参加者数：500人



名人・今野実氏の指導のもと、竹トンボを作製



西野中学校リコーダー部による演奏



札幌コンマス・大平まゆみさんによるバイオリンの演奏

水車で地域交流会

かつて140基もの水車が存在し、稲作が盛んに行われていた西野の歴史を、地域の子供たちに伝えるため「水車で地域交流会」を実施しました。

地域の方から、直接、西野の歴史を学んだほか、ピンや棒を使った昔ながらの精米体験や縄作り、羽釜を用いた炊飯作業などを行いました。

また、西陵高校の生徒が、小学生のサポート役として参加し、幅広い世代間での交流が図られました。

実施日：10月4日(土)

場所：五天山公園

参加者数：150人



山の手まちづくりセンター 山の手トライアングル・プロジェクト

緑のカーテンによる“環境にやさしい山の手まちづくり”事業



○緑のカーテンの試行継続

期 間：6～10月

試行4年目を迎え、山の手会館、小学校、児童会館、介護施設と合わせて12の事業所が試行に参加し、各施設の年間行事として位置づけられてきました。アサガオ、ゴーヤ、ヘチマなどの生育状況をブログ等で発信し、普及に向け参加を呼びかけました。

協力施設：保育園2、小学校2、児童会館2、病院、図書館、介護施設2、会館、まちセン



山の手まちづくりセンター



山の手ミニ児童会館カーテン



山の手児童会館のカーテン

三角山で育む“まちづくり心”支援事業

三角山ボランティアが中心となって企画運営する、三角山の魅力発信・保全活動・登山マナーの啓発などに関連する事業を支援しました。

- △三角山健康登山スタンプラリー (6～10月)
- △三角山ふみの日登山 (7月23日)
- △三角山ボランティア整備登山 (8月16日)
- △三角山ハンカチアート展 **新規** (9月12～17日)
- △三角山写真展 (11月11～14日)



三角山写真展



三角山ハンカチアート展

ネットワークで発揮する“まちづくり力”支援事業

○まちづくりサロンの開催

今年度より2つの児童会館が加わり、まちづくり活動に取り組む18団体の代表者が定期的に集会。それぞれの事業の進捗状況等を報告し、相互理解を深めました。

○(仮称) 早期の高齢認知症者の見守り支援会議

-外出先のネットワークづくり- **新規**

山の手地区内の金融機関が集まり、現状について意見交換を行いました。事例紹介や質疑応答の結果、金融機関での職員研修及び高齢者支援の専門機関との連携が討議され今後継続拡大の方向となりました。



まちづくりサロンの様子



落ち葉の堆肥化

～みどりの貯金箱の活動拡大！～



発寒地区では、町内会や商店街、子ども会、小学校、青少年育成委員会などが協力し、地域一丸となってエコ活動に取り組みました。

廃食油の回収・リサイクルや、落ち葉の堆肥化の取り組み、子どもたちへのエコライフ啓発事業など、地域の環境に優しいまちづくりを呼び掛けました。

公園内の落ち葉を堆肥化する「みどりの貯金箱」は今年「はつなん公園(発寒三条泉緑地)」にも新たに設置され、子どもたちの環境学習の題材となるなど、着実に活動を拡大しています。



子どもたちの環境活動

◆ 環境施設見学会

雪冷房施設や青少年科学館などの、環境に配慮した施設を見学。

楽しみながら、エコ活動について学びました。



▲【雪冷房施設を見学！】モエレ沼公園のガラスのピラミッドはエコな秘密がいっぱいでした！

廃食油で石けん作り



商店街のお祭りや西区子どもまつりなどで、廃食油を使った石けん作りを行いました。

廃食油でローソク作り



小学校や児童会館などで、廃食油で作る手作りローソク教室を実施しました。

エコタウンはっさむフェア



イオン札幌発寒店において啓発イベントを行い400人が参加しました。

エコな出前講座



介護予防教室や子育てサロンでも、石けん作りの出前講座を行いました。



▲【楽しみながら学ぼう！】青少年科学館には、遊びながら環境について学べる装置がたくさんありました。

八軒中央まちづくりセンター 地域の安全・安心なまちづくり支援事業

まちづくり探検隊 Part 8 ～わたしたちのまちの交通安全～

実施期間：7月～10月

場 所：琴似中央小学校&校区内エリア

参加者数：琴似中央小学校5年生 83人

地域への愛着を深め、まちづくりの担い手意識を育むために、琴似中央小学校5年生と八軒中央連合町内会、まちづくりセンターが連携してまちづくり活動を行う「まちづくり探検隊」。今年も、昨年に続き「わたしたちのまちの交通安全」をテーマとして、自転車を安全に楽しく乗るための取り組みを行い、活動の成果を交通安全ポスターにして地域へ発信しました。

7/7 自転車安全教室



西警察署や地域の方等から自転車の安全運転について学びました。

7/15 学習会



8/26 現況調査



地域の方と危険箇所を調査

9月 ポスター作成



交通安全ポスターを作成し、八軒中央会館に掲示。優秀作品2点をストップシールにしました。

八軒中央会館にポスターを掲示



ストップシールを作成



消防学校“市民公開”での防災体験

実施日：8月1日

場 所：札幌市消防学校

参加者数：140人

地区内にある消防学校との交流事業を実施しました。
煙中避難訓練、防災資機材取扱訓練やロープ結索訓練などを行いました。



煙中避難訓練



防災資機材取扱訓練



ロープ結索訓練